

令和7年3月10日
ねづやま夢の学び舎
世田谷区立梅丘中学校
校長 石綿 健一郎
学校関係者評価委員会事務局

令和6年度 学校自己評価報告書

1 地域との連携・協働による教育

- 考察等 ○学び舍合同学校協議会や避難所運営訓練等、地域と協力、協働した活動を行うことができた。
○地域運営学校としての活動について、その位置付けや果たしている役割についての周知が不十分な点があった。
- 改善策 ○学校だよりやホームページ等を通じて学校活動の周知を図るとともに、保護者・地域との連携をさらに強化する。

2 主体的に学習に取り組む態度の育成

(1) 学習指導

- 考察等 ○「せたがや探究的な学び」を基にした授業改善に取り組み、「教える」指導から「学ばせる」指導への移行を促進した。
○話し合い活度を重視し、生徒が相互に自分の考えを伝えあう場面を各教科で取り入れることにより、学びを深める機会を多く設けた。
- 改善策 ○継続して「せたがや探究的な学び」を軸とした授業改善に努め、生徒が自ら学ぶ意欲を高めるために指導・支援を行う。

(2) 特別活動・学校行事

- 考察等 ○学校行事への取り組み意欲、向上心の高さは本校の伝統ともいえるものとなっている。生徒自らが考え、行動する場面を設定していることが生徒の達成感や充実感につながったといえる。
- 改善策 ○校訓でもある「自治」の力を身に付けるため、行事をはじめ普段の学級活動においても生徒が自ら考え行動する場面を多く取り入れる。

(3) キャリア教育・進路指導

- 考察等 ○キャリア・パスポートの活用の一環として、教育相談（三者面談）での生徒による1分間スピーチを行った。生徒が自らの目標と達成状況を振り返るよい機会となった。
- 改善策 ○1分間スピーチを継続して行い、生徒の自己理解を促すとともに、学校・保護者が協力して生徒の活動を支えられるようにする。

(4) 学び舎活動

- 考察等 ○年3回の合同協議会を行うとともに、あいさつ運動や小学校運動会のボランティア活動など、連携した活度を進めることができた。

(5) 特別支援教育

- 考察等 ○個々の生徒の特性を把握するとともに、校内での情報共有を図り、一人ひとりに寄り添った教育活動進めることができた。
- 改善策 ○別室登校の体制づくり等、より組織的で実践的な対応、取組を進める。

3 信頼と誇りのもてる学校づくり

- 考察等 ○保護者や地域の意見を計画的に収集・分析し、改善に努めた。全教職員が、授業を始め生徒にかかる諸活動を大切にしている。情報発信の充実を含め、次年度も信頼される学校づくりに高い水準で取り組む。

4 安全・安心と学びを充実する教育環境の整備

- 考察等 ○生徒にとって、安心かつ安全で充実した学習環境が整うように点検や管理を適切に行い、教育環境の整備に努める。